

JAPANESE DIVISION OF THE INTERNATIONAL  
ASSOCIATION FOR DENTAL RESEARCH

1978—Ⅲ

部 会 報

December

1. 第26回日本部会総会

第26回日本部会総会は、1978年12月2日(土)および3日(日)の両日に行われ、小田原アジアセンターにて開かれた。一般講演65題を中心に、204名の参加者を得て、終始活発な討論がかわされた。

当会場は、1972年第20回総会の開かれた所で、席上、1980年IADR国際総会の日本招致の推進が決議された、日本部会にとり記念すべき場所である。そこで今回はとくに2時間にわたる“ IADR 1980, Teach-In ”が企画開催され、2年後に迫った国際総会を目標に、きわめて盛況であった。

Business Sessionは欠席の大西会長に代わって須賀副会長が司会し、2日午後1時より2時30分の間に開かれ、前夜もたれた理事会の立案に従って、下のような議事および報告が行なわれた。

1) 庶務報告

田熊理事より下の通り報告された。

(1) 会 合

理 事 会	1977 / 12 / 1	医 歯 大 特 別 会 議 室
	1978 / 6 / 23	〃
	1978 / 9 / 9	〃
	1978 / 12 / 1	小 田 原 曾 根 歯 科 宅

(2) 出 張

第56回IADR総会(1978/3/16~18)

大西, 須賀, 河村, 田熊理事

第66回FDI総会(マドリッド, 1978/9/25~30)

大西, 須賀理事

(3) 印 刷 物

○ 部会報 1978 - I ( January )

1978 - II ( May )

(4) 会 員 ( 1978 / 10 / 31 現在 )

正 会 員 391 名  
 賛 助 会 員 7 社  
 正 会 員 手 続 中 73 名

2) 会計報告

田熊理事よりつぎのごとく報告, 石木, 並河両監査報告を経て全員の承認を得た。

なお, 来年度以降会計の一部を IADR 1980 実行委員会へ移管することを諒承。

53 年度決算報告書 ( 昭和 53 年 11 月 1 日より )  
 ( 昭和 53 年 10 月 31 日まで )

収 入 の 部	金 額	支 出 の 部	金 額
繰 越 金	2,421,270	通 信 費	226,964
年 会 費	812,000	印 刷 費	205,100
賛 助 会 費	220,000	コ ピ ー 代	3,220
補 助 金	500,000	会 合 費	106,810
前 総 会 収 入	187,057	宿 泊 費	40,505
仮 払 い 戻 り	100,000	交 通 費	88,800
1980 大阪大会協力金 ( 33 名 )	455,000	事 務 用 品	40,410
利 息	36,589	事 務 局 の 机 イ ス	39,600
		仮 払 い ( 総 会 ) 準 備 用 地	200,000
		銀 行 手 数 料	,450
		ア ル バ イ ト 謝 礼	133,416
計	4,731,916	計	1,085,275
残 高	3,646,641		

3) 会則変更

田熊理事より終身会員制度の新設について提案と説明があり, つぎのごとき条項を付則に追加することが決議された。

① 付則Ⅰ-1-3のつぎに「4) 終身会員：本会の正会員として25年以上在籍した65歳以上の者で，Council の推薦を経て，総会の承認を得たもの」を追加，それに従って，Ⅰ-1-4) をⅠ-1-5) と改める。

② 付則Ⅱ-1-3) の次に「4) 終身会員 免除」を追加，それに従ってⅡ-1-4) をⅠ-1-5) と改める。

#### 4) 事務局長選挙結果

有権者 340 名中投票者 207 名（投票率 61%）で，理事会推薦候補須賀教授得票数 207 票。従って須賀教授が 1979 - 1982 年の日本部会 Secretary - Treasurer に決定した。

#### 5) 新 Council メンバー

田熊理事より下のごとく指名提案があり承認された。

President	田 熊 庄三郎
Vice-President	森 政 和
Secretary-Treasurer	須 賀 昭 一
Immediate Post-President	大 西 正 男
Executive Secretary	高 添 一 郎
Councillor	河 村 洋二郎
	三 浦 不二夫
	船 越 正 也
	川 原 春 幸
	小 椋 秀 亮

上記のうち，船越，川原，小椋の 3 Councillor は 1979 - 1980 年に限り，とくに President の依頼により承認をうけたもの。

なお，President-Elect は規程により 1979 年総会席上で選出する。

#### 6) 第 56 回 IADR 総会報告

第 56 回総会は，Washington 市 Hilton ホテルで 1978 / 3 / 16 ~ 18 に開かれたが，日本部会代表理事として出席した河村理事よりその模様について報告があった。

なお，第 57 回総会は，New Orleans の Marriott ホテルで 1979 年 3 月 29 日より 4 月 1 日にわたって開かれるが，日本部会代表理事として河村，

須賀理事が出席することに決定した。

7) 事務局の変更

須賀新事務局長の就任に伴ない  
昭和54年1月1日より事務局を下のように改める。

東京都千代田区富士見町1-9-20  
日本歯科大学病理学教室  
〒102 TEL03(261)8311

年度会費は下記の通りお振込下さい。

先方銀行	富士銀行 九段支店		
預金種目	普通	口座番号	832168
受取人	IADR 日本部会 事務局長 須賀 昭 一		

2. 第58回IADR大阪総会準備の現況について

河村組織委員長より下の通り報告された。

1) 組織委員会報告

IADRを日本で開催するよう働きかけることの決議が最初に行われたのは、1972年このアジアセンターで開かれた第20回IADR日本部会総会であった。その時には招待時期は1978年ということであった。しかし、1978年IADRを日本で開くことはロンドンでの理事会での審議の結果、1980年に変更された。

1972年にIADR総会を日本に招聘するよう議決してから日本部会の役員会は、ただちに企画委員会を構成し、その対策につき検討してきた。本年3月ワシントンDCの理事会で、IADR第58回総会は1980年に大阪市ロイヤルホテルで開催ということが最終的に決定された。

ここで企画委員会はこれを契機に発展的に解消し、第58回国際歯科学会総会組織委員会が構成された。昨日その第1回組織委員会が開催されたが、組織委員会の構成は次の6つの部門からの委員によっている。

- (1) IADR 日本部会の役員，前企画委員会委員
- (2) 各歯科大学からの代表委員各1名
- (3) 日本歯科医学会の各分科会代表各1名
- (4) 日本歯科医師会大阪・兵庫・京都の各歯科医師会の代表各1名
- (5) 大阪歯科大学と大阪大学歯学部と同窓会からそれぞれ1名
- (6) 関係業界から代表各1名

総数 60 名で構成された 1980 年 IADR 大阪大会組織委員会の委員長は IADR 本部の 1980 年大会 Organizing Committee の Chairman である大阪大学河村洋二郎教授，副委員長には臨床代表として東京医科歯科大学の総山孝雄教授，歯科基礎医学代表として日本歯科大学の須賀昭一教授が就任した。事務局長は次期(1979～1980)会長である東京歯科大学田熊庄三郎教授である。

組織委員会の目的は国際学会を成功させるため各界と連絡を密にすることである。特に，それぞれの所属する組織に十分 IADR 総会を PR し，企画からの準備状況などにつき連絡し，またそれぞれ組織委員の意見を具申することである。しかし，60 名の組織委員会を頻繁に開くわけにはいかないので，組織委員会と並行して実行委員会を組織した。この実行委員会委員は，関西在住の組織委員から選出された。すでに 6 回開催されたが，実行委員会のメンバーは，委員長河村洋二郎教授，副委員長大阪歯科大学川原春幸教授，事務局長大阪歯科大学 森 政和教授（1979 - 1980 日本部会副会長），大阪歯科大学木下善之介教授，岐阜歯科大学 森 昌彦教授，大阪大学歯学部常光 旭 教授，大阪大学歯学部作田 守 教授，更に学会会場のホテルから代表 1 名，JTB 関係から 1 名，国際会議事務局（ICS）から 1 名，JAL から 1 名，モリタから 1 名，計 12 名のメンバーで構成されている。

実質的な企画検討はこの実行委員会が主体的に仕事をすすめるが，重要な事項は，組織委員会に報告し（文書報告も含めて），また，日本部会の事務局からもニュースとして全会員に迅速に伝えることにしている。

## 2) 実行委員会報告

### (1) 実行委員会の目的

IADR 1980 大阪大会を国際親善，学術交流の面で極めて有意義なものにするための具体的企画を立案する。

特に国際学会としての品位と権威の面を十分考慮した学会運営を行う。

(2) 具体的活動

(1)のねらいの線にそって現在4つの大きな主要項目をとりあげ、具体的活動を検討するとともに、一部活動を開始している。

a) 学会運営に必要な基金の確保

- 業界よりの協力金
- 学会・協会よりの協力金
- 会員よりの協力金
- その他(参加費, 講習会費など)

b) 参加者確保のための対策

- サーキュラーの発行(外国向けと国内向け)
- ポスター作成
- 組織委員会委員を介してのPR
- 学術雑誌, 同窓会誌, 大学紀要, 新聞その他マス・メディアを介してのPR
- 各国旅行業者を介してのPR
- 学会の Social eventsの立案(観光, 宴会など)
- 日本人参加者用の企画

c) 学会場に関する事項

- 通訳問題
- audio-visual system
- 必要な学会場及び会議室の確保
- ポスターセッションについての検討

d) 学会プログラム編成

- シンポジウム
- 特別講演
- 開会式プラン(宮殿下台臨, メッセージ, 科学賞及び感謝状授与式など)
- サテライトシンポジウム

3) IADR 1980 Osaka 大会協力金について

同封趣意書の通り, 上記協力金を募集しているが, 12月3日現在で, 下記

の 66 名の方から計 895,000 円の醸金をいただいている。

なおできるだけ多数の方のご協力を得たく、重ねてお願いする。

総山孝雄，加藤元彦，木所正直，小室史郎，  
石川富士郎，菅野義信，井上昌幸，荷宮文夫，  
鈴木文雄，岩本義史，平沼謙二，小西浩二，  
関園子，堤璋二，渡辺達夫，石井俊文，  
小林敏郎，田熊庄三郎，永井教之，柳沢孝彰，  
青野正男，東田久子，小椋秀亮，高田充，  
河村洋二郎，片山有夫，三浦不二夫，嶋良男，  
布田栄作，西野瑞穂，船越正也，久田太郎，  
大森郁朗，中井宏之，松浦英夫，石木哲夫，  
片桐正隆，覚道幸男，吉岡济，川原春幸，  
山田正，高添一郎，常光旭，清水正春，  
河田照茂，石川純，竹内光春，秋吉正豊，  
松下義雄，山下洋子，森岡俊夫，須賀昭一，  
松代浩明，山下哲賢，中山義之，石田武，  
松本光生，亀田和夫，堀井欣一，平沢忠，  
中村嘉男，津留宏道，松本章，西連寺永康，  
愛知学院大学補綴学教室 (順不動)

第 27 回 IADR 日本部会開催予定

日 時 昭和 54 年 12 月 7 日 (金) ・ 8 日 (土)  
場 所 野口英世記念館  
東京都新宿区大京町 26  
国電・千駄ヶ谷駅下車 5 分